

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	第2回吉川市産業振興会議
開 催 日 時	令和6年2月15日(木) 午前10時30分から 午前12時00分まで
開 催 場 所	吉川市役所204会議室
出席委員(者)氏名	【産業振興会議委員】 近藤 旭、中村 新一、飯箸 幸弘、石井 和也、西山 亜弥、妹尾 建二、附田 健志、塩入 英明、井上 義久、道垣内 壮史 小林 千重(産業振興部長)
欠席委員(者)氏名	伊藤 健、吉川 真由、河野 一晃
担当課職員職氏名	産業振興部 商工課 課長 染谷 憲市 商工課 消費労政係長 金子 和枝 商工課 商工観光係長 東原 拓哉
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1. 開会 2. あいさつ 3. 議事 今後に向けた事業展開等について 情報提供 (1) 地方創生臨時交付金活用事業について (2) 産業フェア・なまずサミット開催報告について (3) 企業ガイドブックの作成について (4) 吉川美南高校生職場見学バスツアーについて (5) 合同就職面接会について 4. 閉会 [公開・非公開] 公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	—
傍聴者の数	2人
会議資料の名称	1. 次第 2. 資料1：地方創生臨時交付金活用事業について 3. 資料2：産業フェア・なまずサミット開催報告について 4. 資料3：企業ガイドブックの作成について 5. 資料4：吉川美南高校生職場見学バスツアーについて 6. 資料5：合同就職面接会について 7. 追加資料：なまずパーフェクトガイド 8. 追加資料：産業振興事業費補助金チラシ 9. 追加資料：第1回産業振興会議 会議録

会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	井上 義久、道垣内 壮史
その他の必要事項	
審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)	
事務局	1. 開会
市長	2. 市長あいさつ 本日は、年度末のお忙しい中ご参加を賜り感謝申し上げます。次年度の予算編成もようやくまとまり、施政方針を作成し、議会の承認が得られれば来年度がスタートする。今回は、本年度の産業振興に関する事業の振り返りと次年度に向けた事業の方向性を説明させていただき、委員の皆様から様々なご意見をいただきたいと考えている。よろしく願います。
会長	会長あいさつ 1月の大地震の発生に伴い被害にあわれた方に心からご冥福を申し上げます。地震対応については、本市、近隣自治体を含め迅速な支援が行えている。本市の産業振興を考えると、本会議の委員より発案されたものが産業フェア等の各種イベント等に様々反映されているものと感じている。本日も知恵を出し合い、活発かつ建設的議論をお願いしたい。
事務局副会長	会長より会議録署名委員として、道垣内委員、井上委員を指名し、両名了承。
委員	3. 議事 今後に向けた事業展開等について 情報提供 (1) 地方創生臨時交付金について 事務局より資料1を用いて説明 事業者連携発展支援補助金を活用させていただいたがとてもありがたかった。事業者が行った連携事業の手段、成果について公表しても良いのではないかと感じている。今後のフォローアップ資料として活用できるのではないかと感じている。 補助金を活用したことで、イメージしていた事業を具体的に進めることができ、現在も継続して行うことができている。私の経験が、他事業者の一助になるのであれば、いつでも協力したいと感じている。

部 長	支援金活用事業者より報告書を頂いているので、各事業者と調整の上公表していきたい。また、連携補助金については、現在、産業振興事業費補助金の中にメニューの一つとして加えていることから、他の事業者の参考となるようまとめたい。
委 員	弊社は、支援金というものを活用したことはない。市は、支援金を出来るだけ多くの事業者に活用してほしい考えか。費用対効果は見えにくいと思うが、どのような方向性なのか確認したい。
市 長	まず、産業振興の条例化にあたり、各企業の発展だけを追い求めるような中小企業条例ではなく、市全体の幸福実感の向上を目指す条例を作ろうというのがスタートで、地元の企業の発展が市の発展に繋がるのかという問いを当時の委員で共有し検討した。企業の発展のために税金を投入することは矛盾があり、市民全体の幸福実感が向上するための産業振興であれば良いのではないかという整理ができた。今回は、市内事業者が連携することで地域経済全体の活性化、市民の幸福実感の向上という視点により実施したもので、条例に合致した補助金という整理で制度化した。もっとも、これまで実施した各種支援策は、国からのコロナウイルス対応や燃料高騰等に対する交付金であり、そうした意味では、できるだけ支援金を活用し、市民の幸福実感向上に繋げていただきたいと考えている。
委 員	事業者への支援によって、市民の幸福実感に繋がるよう市からの情報開示がどれだけうまくできるかが重要と感じる。支援金を活用したことで売り上げや雇用に繋がり、法人税の納付に繋がるという流れの中で、成果が少し見えなくなっていると感じる。成果を数値で表すことはやはり難しいものか。
市 長	この支援金の成果を数値で表すことは難しいと感じる。
会 長	市民アンケートの中に、そのような測定もあるのではないか。
市 長	地元企業や農業の良さを子ども達に知ってもらい、これまでとは違う意識を持って産業界をみてもらうという効果を目指し補助金を創設しているが、事業者の就業者数などの数値化は難しい。事業者のエピソードの積み重ねで公表するのが良いのではないか。
委 員	活用した事業者は費用対効果を出せるのではないか。
市 長	支援金を使い、どのような成果に繋がったかという部分は見えてくるが、それを数値化できるかというとなかなか難しい。
会 長	観光協会のインスタをフォローしているが、補助金の話も発信されていて逆に良かったと感じている。連携の成果についても発信すれば、少しずつそのような動きが広がると感じる。
部 長	活用いただいた事業者の成果について、SNSを活用した発信について検討していきたい。
委 員	下支えの支援金を活用したが、高騰による影響が大きかったの

委員	<p>でとても助かり、自身の幸福感は向上した。</p> <p>連携補助金を活用したタイミングが、弊社が苦しい時期で、事業に対する方向性や考え方を明確にし、チャレンジすることができたと感じる。挑戦のための補助金ということで、その一步を踏み出そうという事業者にとっては、市長からあったように新たなチャレンジに繋がると感じるので、今後も本補助金を継続いただけるとありがたいし、他の事業者が自分たちもやってみようと考えていることを期待したい。</p>
委員	<p>弊社も補助金を活用し農業者と連携して、粃殻カップを作成した。事業として次のステップへ行くきっかけとなり、有効に活用できたと感じている。また、メリットとして市と連携してこの事業が展開できたと従業員のモチベーションが向上したという部分が大きく、有効だったと感じている。</p>
市長	<p>整理すると、コロナ対策と原油等の物価対策は、基本的には国からの交付金に対し、市でスキームを考え事業者に交付する支援金である。一方で、委員の皆さんから話のあった事業者の連携という部分は市が独自にやっていて未来へのチャレンジという形となる。下支えというのは、大きな金額が必要で、国や県のような大きな組織でないと用意できない。市はチャレンジする部分を支援するというすみ分けを行っている。先ほど説明のあった粃殻カップに関しては、半成人式という10歳になった子どもたちの式典で、記念品としてお渡し頂くことで、子どもたちは、地域の事業者を知り、地域の農業や環境を考えるきっかけとなった。</p>
委員	<p>子どもだけでなく、親御さんにとっても喜んでいただいたことが印象的であった。</p>
委員	<p>どこまで成果を説明できるかは事業者により様々だと感じるし、良い成果ばかりではないと思うが、市民や他の事業者が見ることで、新たな事業展開に繋がるのではと感じる。</p>
会長	<p>他の委員はどうか。</p>
委員	<p>事業者に広く周知するというのはとても難しいと感じる。市からチラシを頂き事業者に周知したところ、知らない方が意外に多いと感じている。</p>
委員	<p>臨時交付金のこれまでの流れを見ると、コロナ対応、物価や燃料価格の高騰への対応は、あくまで一時的な対応であり、今後も資源材料、物価高は常態化すると感じている。事業者連携やチャレンジへの支援などは重要である。</p>
副会長	<p>産業振興条例に事業承継が入っているが、この部分に関する施策はどうなっているのか。相談ができない事業者も多いのではないかと感じる。</p>
市長	<p>企業を訪問する中で事業承継の必要性を感じている。</p>

部 長	事業承継に関しては、市内では商工会がセミナー等を開催し、専門機関への引継ぎを行っている。
事務局	以前、承継に関して事業承継・引継ぎセンターに相談したところ、承継に関しては、デリケートな一面があり、個別の相談対応が望ましいとのことである。
市 長	例えば、M&Aの実績として産業フェアで委員に講演してもらうことも良いのではないか。
委 員	市内では、代替わりが進んでおり、銀行で相談を受けた場合についても引継ぎセンターに繋いでいる。相談会に参加することを気にされる方が多い。事業者からの承継に関する相談割合は増加傾向となっている。
会 長	産業フェアに関しては、M&Aのみならず、承継に関する専門家を招いた講演会についても検討いただきたい。
事務局 会 長	(2) 産業フェア・なまずサミット開催報告について 事務局より資料2を用いて説明し当日の動画を投影。 今回、産業フェアとなまずサミットの合同開催ということであったが、雨、風が強く、参加者数も天候が良かったら、相当な人数になっていたと感じる。当日、会場を見学したが、職業体験がとても良かったと感じた。一方で、屋外に関しては、やはり、雨天ということもあり、残念であったと感じている。
委 員	天気に関しては、どうしてもない部分ではあるが、悪天候の際の対応について、もう少し検討すべきではないか。動画中の、子どもたちが喜ぶ姿を見ると、役に立つことができ良かったと感じている。
部 長	昨年は雨で残念な部分があったので、次年度は、同程度の規模感で屋内開催できるよう調整していきたいと考えている。また、産業振興条例の中でも産業と教育の連携を掲げており、子どもの職業体験を実施し、市内の産業を知ってもらう機会として、子育て団体との協働により実施したいと考えている。あわせて、4年振りに、ものづくりアワードを開催したいと考えており、事前の応募、選定を経て、当日に表彰を、また、よしかわマルシェを同時開催するとともに、地域農業の発展に欠かせない女性の活躍をテーマに出展ブースとステージでの座談会を予定している。さらに、先ほどの事業承継に関する講演についても検討していきたい。
会 長	本日、欠席委員より意見を預かっているので紹介したい。まず、産業フェアに関しては、当日出店したが、火気の使用で屋外、屋内に分かれた形で、最終的に屋外の出店者が屋内に移動したが、臨機応変な対応が必要ではなかったか。また、周知に関しても、広く行っても良いのではないかと感じている。さらに、市がなまずを推し

部 長	<p>ていくのであれば、取扱飲食店に仕入れの補助金を出すことで、市民の認知に繋がるのではないかとのことである。</p> <p>現在、市内の養殖場から市内事業者が仕入れを行った場合の補助について制度の検討を進めており、なまず料理を提供する機会の増加や事業者連携、さらには、地域経済の活性化に繋がるものと考えている。</p>
市 長	<p>本補助金については、委員より提案を頂き予算計上したものである。あわせて、産業フェアに関しては、次年度、しっかりと周知していきたい。また、なまずに関しては、サミットを吉川で開催したこともあり、広くPR出来たものと感じているが、市民のなまず認知度については、継続的な課題であり、行政と事業者が一体となり進めていきたいと考えている。</p>
委 員	<p>なまず認知の点では、地元の方は必ずマイナスから入り、子どもに対し教育面からの浸透が望ましいと考える。自社のなまずコーラも、手に取るのさえ怖い雰囲気が多くあったと感じ、身近なお店で食べられるなど、広がりがあればと考えている。</p>
委 員	<p>知り合いに地域産業を研究している学生がいて、身近で食すことが出来るようになることが大切と言っていた。</p>
事務局	<p>配布したパーフェクトガイドについては、次年度増刷を予定している。市内飲食店や大手スーパーとかにも配布したいと考えており、引続き市民への周知に努めたい。</p>
事務局	<p>(3) 企業ガイドブックの作成について</p> <p>事務局より資料3を用いて説明</p>
市 長	<p>以前、委員からご提案をいただいたもので、市としてはぜひ、令和8年の市制施行30周年に向かい、産業振興会議の委員と意見交換を行いながら、作成を進めていきたいと考えている。例えば、紙面だけではなく、データ版の検討など様々なご意見を頂きたい。</p>
会 長	<p>今回はものづくりで製造業をピックアップしているが、例えば多様性や人材としての視点も良いのではないかと感じる。どれだけ要約し、盛り込みすぎず、しっかりと伝えられるようなバランスを取り掲載しなければならないと感じる。</p>
委 員	<p>一市民として暮らしていると、市内には、世界的なシェアがある企業や誰もが知っている製品に関わっている事業者があり、これから就職する方、子どもやその親世代にも、広がっていきやすい冊子だと良いと考える。</p>
副会長	<p>BCPと絡めて、災害への備えという点で、事業者と行政の連携みたいな冊子も良いと感じる。市民の方が見る価値が出てくるのではないかと感じる。</p>
市 長	<p>基本は産業振興条例に基づく冊子であるべきで、様々なトピック</p>

	<p>クスが入り、そこに紐づく企業が紹介され、特徴なども盛り込めたら良いと感じる。委員からのご提案を参考に、案を事務局からお示しし、改めてご意見を頂きたい。</p>
<p>会 長 委 員</p>	<p>以前、若手農業者の冊子を作ったがその際はどうか。 約1年かけて作成したもので評判が良かった。また、男性農業者の掲載となっていたので、女性農業者を紹介しても良いのではないかと。</p>
<p>市 長</p>	<p>女性農業者の活躍を紹介することはとても良いと感じる。先ほど部長から説明があったように、来年度、女性農業者の様々な啓発事業を行っていきたい。また、作成した冊子については、数字で評価することは難しいが、青年会議所の皆さんと一緒に作成したので、モチベーションの向上や市民が生産者の想いを感じていただくことで、市内の野菜を買おうという意見がとても多かった印象である。</p>
<p>委 員</p>	<p>これから作る冊子は、誰に向けて発信されるのか。事業者向けと感じているが、公表が難しい方もいると感じる。</p>
<p>市 長</p>	<p>前は、事業者のガイドブックとして作成しているが、今回はもう少し違うテンションで作成してもよいと感じる。</p>
<p>事務局</p>	<p>(4) 吉川美南高校生職場見学バスツアーについて</p>
<p>委 員</p>	<p>事務局より資料4を用いて説明 就職希望者28名となっているが、残りの生徒は進学希望ということで良いか。</p>
<p>事務局</p>	<p>就職希望者のうち、当日の参加者は28名であり、他の生徒は、進学希望や進路が未定の方も多いためとのことである。</p>
<p>委 員 事務局</p>	<p>2年生全体では何人いるのか。 約150人である。また、3年生になると、就職と進学が約半分の割合になってくるとのことである。</p>
<p>委 員</p>	<p>参加者が少ない気がするので、例えば、事業者が学校に出向いてプレゼンを行うことは可能か。</p>
<p>事務局</p>	<p>学校への訪問については確認する。また、今回の事業者の選定にあたっては、事業者へのアンケートの中で、協力が可能との回答を頂いた事業者の中から学校と調整し、2時間程の授業で、訪問可能な事業者を学校と調整したものである。</p>
<p>市 長</p>	<p>事業者が学校を訪問する形はとても面白いと感じる。1事業者では小さいので、例えば組合単位で場所を設けて、そこで、プレゼンするというのも良いと思う。様々な形を模索していきたい。また美南高校だけではなく、近隣の工業高校にも声をかけているので、幅を広げていきたいと考えている。</p>
<p>委 員</p>	<p>社長自らプレゼンすれば熱量が違うので是非挑戦したい。</p>

<p>市長 委員会 委員長 事務局 委員</p>	<p>就職希望だけではなく、全学年を対象とすることで、例えば、大学へ進学した後の選択肢に幅が広がると感じる。</p> <p>理想を言えば、全校集会で話したい。</p> <p>例えば、学校の文化祭にブースを出すことはできないか。</p> <p>学校側と調整していきたい。</p> <p>企業が学校に出向くのは良いと感じるが、職場の雰囲気伝えるという点では難しいと思う。この世代の親としては、学校の外に出して社会見学をさせるというのが大切と感じる。</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>(5) 合同就職面接会について</p> <p>事務局より資料5を用いて説明</p> <p>一般、大卒の求職者が令和4年に比べ大幅に増加しているが、何か理由があるのか。</p>
<p>事務局 会長</p>	<p>開催にあたり、ハローワーク越谷とこれまで以上に連携し、周知したことで求職者が増加している。</p> <p>高校生は、この時期ではまだ就職解禁前なのか。例えば、面接会を説明会としてはどうか。</p>
<p>事務局 市長</p>	<p>学校側との調整の中でも、この部分は様々な意見があったので、今後検討していきたい。</p> <p>就職面接会や高校生の受け入れ事業者は、私と職員で訪問し、顔が見える関係になっている。企業には行政と連携しようと思っていただくことが大切で、今後も訪問を継続していく中で、様々な事業に繋げていきたい。訪問の中では、有名ブランドメーカーのものを作っている会社もあるが、外部には一切名前は出せないということが多々あり、市民から見たら大手スーパーのオリジナル商品に見えてしまう。</p>
<p>委員 事務局 会長</p>	<p>例えば大学生のインターンシップは当たり前になっているので、高校生では実施できないのか。</p> <p>頂いたご意見は、学校側とも共有し確認する。</p> <p>中学生の職業体験の高校生版ができたら良いと感じる。</p>
<p>副会長</p>	<p>4. 閉会</p> <p>今後も引き続き、吉川のために様々な意見交換が行っていきたいと感じる。以上をもって、第2回産業振興会議を終了する。</p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p>令和6年3月4日</p> <p>署名委員 井上 義久（自署） 署名委員 道垣内 壮史（自署）</p>	